

平成25年度

第3回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成25年10月8日（火）

場所：鶴岡市総合保健福祉センター にこ・ふる

平成25年度 第3回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成25年10月8日（火） 午後1時30分～

○ 場 所 鶴岡市総合保健福祉センター にこ・ふる

○ 出席委員（五十音順）

伊藤俊昭、稲泉眞彦、奥山春名、後藤輝夫、今野毅、今間智寛、齋藤春子、
菅原衛、菅隆、竹内峰子、竹田理英、田村勇次、茅野進、土岐純一、早坂剛、
本間仁一、丸山絢子、三浦惇、山田登、横山真二

○ 欠席委員（五十音順）なし

○ 市側出席職員

地域振興課長 阿部真一、地域振興課主査 三浦裕美、地域振興課専門員 前田哲佳、
地域振興課主任 小野寺善紀、地域振興課主事 富樫智彦

1 開 会 （午後1時30分）

2 あいさつ

3 分科会

（1）各協議テーマの具体的な解決策・施策について

4 全体会

（1）各分科会での協議内容報告

（2）提言書に向けて

（3）その他

5 そ の 他

6 閉 会

- 1 開 会 (午後1時30分) 進行：三浦裕美地域振興課主査
- 2 あいさつ (早坂剛会長)
- 3 分 科 会 (ワークショップ)

各協議テーマの具体的な解決策・施策について

「地域コミュニティ分科会」(座長：山田登分科会長)

「産業経済分科会」(座長：今野毅分科会長)

- 4 全 体 会 (議長：早坂剛会長)(午後3時40分)

○ 早坂剛会長 それでは分科会で話し合ったことについて報告をお願いします。はじめにコミュニティ分科会の山田分科会長をお願いします。

○ 山田登分科会長 大きい課題として人口減少を食いとめるために、魅力のあるまちづくりをしていくという視点から話し合いを進めましたが、もっと根本的な視点から取り組んでいく必要もあるのではないかとということで、例えば「はばたく鶴岡」といったようなキャッチフレーズで、勢いのある鶴岡のまちづくりを示してもいいのではないかとありました。

各地域ではいろいろな行事などをやっております。その行事は地域おこし、地域の活性化につながっていくようではなければならない。よって地域を巻き込む工夫をしていく必要があるのではないかと。そういう面から婚活についての話し合いを進めてきましたが、婚活も今流行の言葉なので、そうでない言葉を使ってもいいのではないかとありました。地域の中で交流事業をやっても、成果まではなかなか結びつかないということで、少し輪を広げて違った地域の人たちとの交流活動にしていくことによって、人と人との新しいつながりが開けてくるのではないかと。また、年1回やればいいということではなくて、成果があるまで年何回もやっていく。成果と熱意を持った地域おこしにつながるようなイベントを各地域で取り組んでいき、そして良い事例を取り上げていったらどうかとありました。

それから高齢者が住みよいまちをつくっていくということで、今いろいろな取り組みをやっているわけですが、個人情報の一つのネックになっているので、個人情報の取り扱いについてある程度、融通が利くような対策を講じていく必要があるということです。

それから子育てについては、保育園の中の預かり保育や学童保育の広がりがどうなっているのか。また第3子の子どもに対するいろいろな支援策がどうなっているのか話題になりました。教育について、鶴岡の教育は城下町から始まり、学校教育は昔から充実しているまちです。以前文教都市という言葉が使われていたので、この提案の中に文教都市が適切かどうか今の段階では分かりませんが、そういう伝統ある教育施策が行われてきており、偉い方や先輩方も続々と出ていた地域なので、その伝統が消えないような教育の施策を考えていく必要があるのではないかと。それから、学校教育だと文化面だけに目が留まるのですが、体育面も充実させていく必要があります。文武両道という言葉がありますが、それも文武両道という言葉を使っているのかどうかはこれからの課題になると思います。スポーツについても具体的に各地域でいろいろやっていますので、体育、文化の両面にわたって充実した教育を進めていきたいということです。

それから空き家についても話題になりました。民間の空き家について、通り一遍の情報を流すだけでなく、所有者の心情をくみ取って活用した形で情報を流していくことに、特に行

政側の配慮をお願いしたいということです。また学校の統廃合に伴って、廃校になった学校を地域で利用するという事になりますが、地域の人口減少に伴って大きい学校をそのまま使うことはなかなか出来ないので、地域の要望に応じて相談にのっていただきながら、活用しやすいような形で考えていく。

それから、女性に対する配慮も大事だということで、これはコミュニティ分科会だけでなく産業経済分科会も一緒ですが、雇用の問題として男性の雇用の充実はもちろん、女性の働きやすい職場が必要であるという話が出て、女性が活かされるような地域や社会にしていくことによって、婚活や子育ての道が開けていくのではないかとということです。

○ **早坂剛会長** 「はばたく鶴岡」というキャッチフレーズが出てきましたが、後ろ向きではなく前向きにやるという施策ではないかと思います。それでは産業経済分科会の今野分科会長お願いします。

○ **今野毅分科会長** 主命題が人口減少で、これはコミュニティ分科会とも共通したテーマでありましたが、産業経済でも人口減少をどのように捉えて対応していくかということで話をしております。鶴岡の良さ、伝統、風土、食文化なども含めて、これらの良さをどう発信していくかが、ひいては若い人たちにとって自分が住むまちの魅力の再発見になり、その魅力を求めて交流人口が増え、やがては定住化につながるのではないかとということで、それぞれの考えや立場で話をしてきました。

鶴岡の良さはいろいろありますが、ここにおられる皆さんが鶴岡の良さを認識しているし、大方の市民も潜在意識として持っていますので、その発信の仕方がどうあるべきか。鶴岡や庄内の中、あるいは県外に向けてもっと発信していく。その方法をどうするのかということで、鶴岡の様々な貴重な資源、素材を、相手に双方向性で伝えるその方法として、今の若い人たちやIT技術をある程度理解している方々には、フェイスブックを含めたSNS・ソーシャルネットワークシステムを利用して発信していくべきではないか。ただし闇雲にではなくある程度グルーピングをする。または個人の主体性をもった自分のグループや会などを利用していく。そういう括りの中でこの鶴岡の様々な良さを発信していこうではないかという結論になったと思っております。これらの前段としては、何故そうなのかということが先ほどコミュニティ分科会からもありましたが、行政でも様々なイベントを大々的にやります。それはそれで当然意味がありますが、情報がある程度のところで限定される。深く広くまでは浸透していない、または底辺までは伝わっていないのではないかとということで、大きな行政のイベントには情報力不足という一面もあるのではないかと。そこで市民個々ができる限りのところで、先ほど申し上げたグループ化、自分の所属しているところでの情報の発信が必要だろうということでもあります。

もう一つは、個人の輪の広がりや鶴岡の良さを発信には必要だということで、例えば、都会で女性が仕事を辞めて自分の家で料理教室をして、器のことやそれを使ったコーディネーなどを教えることなどが流行っていて、今度はその生徒さんたちで、子育て中のため働いていない人たちが、今度は自分の家を活用してやってみるといったように、女性が自分の持っている特性を發揮するといった話から派生して、子育てについて、お母さん達が自分の子どもを側で見ながら育てていけるような働き方の仕組みをつく作るべきではないかという話が出ました。働く女性や若い人たちへの鶴岡の魅力となり、それが鶴岡で子どもを育ててい

きたいということにもつながっていく。そこから訪れてみたいまち、鶴岡のまちのファンづくりにつながるのではないかとということです。

総合計画が平成20年度に策定された時には、これほどの人口減少というものは想定されていなかったという事務局の話もあり、まだ5年しか経っていない中でこの人口減少という非常に大きな問題に我々は直面しているとすると、様々な人に鶴岡の良さを発信して鶴岡に来ていただいたり、住んでいただいたりするということがまさに火急を要する提案事項だと思いましたので、発信の方法も含めて、いろいろな魅力を発信することで11月の審議会提言をまとめていきたいという結論になりました。

○ **早坂剛会長** ただ今、両分科会長からまとめの報告をいただきましたが、これからは自分の分科会に限らず何かありましたらお願いします。今情報の発信が非常に大切であり、またその発信の仕方にも問題があるのではないかとということでしたが、今年も花火大会が大変盛り上がりました。大きな大会になってきて、これからも継続されていくわけですが、情報発信についてどのように感じているか、今までやってきたことでも結構ですが、今間委員いかがですか。

○ **今間智寛委員** 今年の花火大会は昨年より1週間ずらして、17日に開催をしました。JCでも1週間ずらしたほうがいいのかどうかで随分話し合い、結果的には良かったと思っております。フェイスブックも非常に大事だと思います。例えばターゲットとする年代が若い人であればフェイスブックはものすごく効果的な媒体であるかと思いますが、大曲の花火大会などに行きますと、結構年配の方もたくさん来ています。鶴岡の花火大会でもそうですが年配の方たちを呼び込む場合は、いろいろなところに足を運んでPRをすることが一番大事だと思っています。それから、せっかく花火大会のチケットを買っても、当日月山新道が10km、20kmの渋滞で鶴岡に着いた時には花火大会が終了する頃だったとか、電車がものすごく混んでいて乗れなかったとかというような話を聞いておりますので、市だけでなく県庁とかいろいろな関係機関が、もっと連携をしてやっていかなければならないと思います。

○ **早坂剛会長** 今年は花火大会が17日でした。15日の荘内大祭、16日が山王町のお祭りとお盆の後半3日間に連続でしたが、その辺りはいかがでしたか。

○ **今間智寛委員** 各団体の方たちからすごく良かったということで、今後もこのような形でのPRと連携をしていきたいとお話をいただいております。この間、観光物産課と話をすることがあり、例年ですとお盆の次の日14日辺りがものすごく混むらしいのですが、今年は14日ではなく17日の日曜日にもものすごくお客さんが来て、売り上げもかなり多くいつもの年よりプラスだったということで、鶴岡お祭りウィークとして連携したことによって、経済効果にも表れたのではないかと考えております。

○ **早坂剛会長** だんだん盛り上がってくると、例えば、アクセスのことなど行政も含めて、いろいろなところに対応出来ていないなど出てきます。その辺を来年のためにもぜひ改善してもらいたいと思いますし、お客さんや家族の方々もお盆の13日ぐらいを目指して来ていた人たちが、花火大会を目指して後半のほうに来ていた方が多かったかのではないかとと思

います。夏の行事が長いことは交流人口を増やす意味においては、非常に大事なことでもあります。花火大会はこれからも目玉になっていくだろうと思いますので、よろしく願いいたします。

その一面において、個人と言いますか一般の方々の発信が全体的に足りないのではないかと思います。もう一つは産業経済分科会で話しのですが、地元の人が地元のことをよく知らない。例えば食べ物や花火にしても、いろいろ良いことがたくさんあっても、例えばパンフレットなどに鶴岡の代表する食材やいろいろな文化財などが出ていても、見たことがない、食べたことがない、知らないという地元の人たちが、かなり多いのではないかと思います。それでは来たお客さんに対して、宣伝や伝えることが出来ないことにもつながっていくと思いますが、竹内委員何かございませんか。

○ **竹内峰子委員** 花火大会ですが、花火の日に月山新道を通った時に、花火のことが思い浮かばず、どうして渋滞しているのか、事故にしてはパトカーは来ないといった中で、鶴岡に近づいたならば、花火が鳴ったことで事故ではなかったことに気づきましたが、渋滞の中にいた方々は、なぜ渋滞なのか分からず不安な時間だったと思います。花火大会はどこにでもあります、鶴岡でこれだけの花火が出来るのだということの自信に繋がっていると思います。次の日山形に行きましたので、昨日の渋滞は鶴岡の花火大会だったのだということ、先々で宣伝しておりました。とってもいい若者達の頑張りがあったのだと感じています。

○ **早坂剛会長** 今のことでは、情報の提供やイベントへの対応の仕方が、今までと違って大きいものになりつつあるので、対応の仕方も今年の実験を活かして、来年もぜひやってもらいたいと思います。

情報の発信の仕方で、最近個人情報というものが非常に厳しくなっているということで、人から人への伝え方が遠慮がちになってきている。コミュニティの中においても、人と人やご近所との付き合いが、今までのように気楽に出来ない感じがして、それが結果的には他から来た人に対して少し閉鎖的な感じを与えてしまうのではないかと考えています。だから他のところだとお客さんが通れば、いらっしゃいと声かけたり、一生懸命説明して売り込んだりしますが、こちらでは一生懸命売り込んだり、自分のところの良さを説明するとかがないように感じられ、本当はすごく世話好きで優しいのに、とっつきにくいような気がして、他からみると何となく入りにくいのではないかと思います。このことから、地域の特性と個人の発信の仕方を一人ひとりが、一生懸命になるようなことが何かないかと考えています。

○ **稲泉真彦委員** 私自身は二十歳を過ぎて、住もうと欲していたわけではないのですが鶴岡に来ました。なぜ住んだのかという大きな理由は人が非常に温かい。学校の先生をしていて、保護者の方と話をしても、とても温かくて和やかでゆったりしている。しかも私は若かったので私の親ぐらの年齢の人たちが、非常に穏やかにゆっくりと話をしてくれる。ある意味正直だし、こちら若気の至りで厳しい事も言ってきましたが、そういう人間関係を築けたというのが一つ非常に大きいです。

それから、自然が豊かで、海、山、川、平野がセットになっていて自由に行ける範囲にあり、それゆえに食べ物が美味しい。私も鶴岡に住むまで、父の転勤の関係であちこちに住みましたが、こんなに美味しいところはないと思いました。まして私などは戦後の食糧難の中

に育ちましたから、お米を白いおにぎりにして食べてこんなに美味しいものはないという育ち方をしました。そういうものがセットであるところは、全国的にもそんなに多くないと思います。以前伊勢に行った時に、突然庄内米と書いてあるのぼりが立っていて、おにぎりを売っていましたが、美味しいから売れるからということでのぼりを立てる。発信力が問われることだと思います。私はつや姫を送っていますが、美味しいことは皆知っているので、県知事もご推奨です、やっと手に入りましたので送らせていただきましたなどとメッセージを付けています。多くの人がそういう形で送ったりすることが、庄内柿などを送ったりすることにもつながるのではないかと思います。

それから花火のことが出ましたが、先ほど竹内委員がおっしゃったように、私も渋滞と対向したことがあり、どうしてこんなに車が混んでいるのかその時は分かりませんでした。山形に住んでいる子どもや友人たちから聞いても、わざわざ鶴岡に来る。山形にもあっても全然違うと言います。私も近年山形の花火を見たことはないのですが、やはり頑張ってきたことが認められたから、山形から鶴岡に来るのだと思います。

それから、私は鶴岡に来て住むと決めたからには、鶴岡の食べ物や歴史などを地元の人より知ることを一番大事にしました。今山登りをしています。今度の土曜日にも六十里越を歩きます。去年も同じ頃六十里越を歩きましたが、地元の30代から70代の人たちが一緒に、ただ歩くのではなくて徹底して歴史を調べたり、語りながら、私も知らないことをその場で教えてもらいながら、いろいろ話しをして歩くという楽しみを今味わっています。やはり素晴らしい土地だということは、動いてみて初めて分かるのではないかと思います。

○ 早坂剛会長 発信の仕方についていかがですか。

○ 竹田理英委員 iPhoneなどを使ってフェイスブックをしていることから、鶴岡市はまだですが、これから先フェイスブックは必要だと思います。分科会で三瀬のブログの話がありましたので、早速iPadで検索したら三瀬はもうフェイスブックをしていました。どれだけの人が見て、どのくらいのフォロワーがあるか分かりませんが、やらないよりはやったほうが良いと思いますので、山形県や酒田市が始めていますし、鶴岡市もこれから始める方向だと思います。最近気になるのが教育の部分で、子どもたちがLINEにはまり社会的な問題になっていることもあり、分科会で文教都市鶴岡という話もありましたので、古い部分は絶対残しながらも新しいことを取り入れながら進んでいくことが、これからのこの地域には必要なのかと思いました。

○ 奥山春名委員 フェイスブック等も必要になってくるし、世の中も必須ということで進んでいくと思います。お米を送る話がありましたが、私も同じように届けたい方に庄内のものを送ります。このように送ったり、言葉で伝えたり、会って話すという形で、人と関わって鶴岡を発信することが大事だと思います。今インターネット社会で人と交流するのが普通になり、お昼ご飯を食べる友達が少なく、一人で食べるのは嫌だからトイレで食べるという話を聞いたことがあると思います。やはりインターネットも大事ですが多用するのではなく、個人と個人とのつながりというか、私はわりと好きなので、昔のように隣の方と野菜やおかずを分け合ったりしています。

それから、先ほどのお話にもありましたが、子どもが小学校中学年くらいまで、お母さん

の側で育てられたらいいと思います。私が育った頃は、隣にもこちらの家にもお母さんが昼間いるというのが当たり前でした。地域性やいろいろな仕事の間接関係があると思いますが、今はすごく少なく、例えば学校で稲狩りとか農業の時間があると、50人くらいの児童の中でお母さんが来ているのは私だけです。私はお米もつくったことはありませんが楽しいし、子どもたちの手伝いに行きますが、子どもたちはお母さんが来ないことが当たり前になっていて、寂しいとは言いませんが来て欲しいのではないかと思います。それには子どもの側で仕事出来る体制が大事で、そういうことが続けられる社会になって欲しいと思いますし、お母さん達が来て近所で情報が伝わるようになればいいと思います。

○ **土岐純一委員** 情報の発信には興味はありますが、まず、私たちはこれが当たり前という感覚でずっと育ってきましたので、ここの良さや他の地域と比べての良さが、どのように素晴らしいのか、周りの人を説得するだけの良さがよく分かっていない、または知らないことが一番のネックだと思います。地元の若い人たち、学生でも就職でも都会に行きますが、それは都会の方が良いということで、逆に都会の人たちからは、都会よりも鶴岡が良いのになぜ都会に出るのかと問われます。やはり自分達のところしか知らない。対比が出来て初めてその良さというものが分かるには、情報の提供が少ないのかと思います。

それから、森林組合からの出席なので山について申しますと、山は眺めれば美しく、秋になると紅葉が大変美しいのですが、長い期間をかけて人工林から育成するとなると、3世代ぐらいで一つの製品になるという状況があります。例えばいろいろなきのこ類や山菜などに視点がいきますが、山の自然は木の育成があつてこそ出来るので、長い期間が掛かるから山の潤いを身近に感じる事が出来ないゆえ関心度が低い。それが一番大きい問題です。以前は全部地元産で家を建てたりしていましたが、今は建築資材の仕様が変わってきて大きい大木が必要としないので、大木を育てる必要がない。行政でも木材の仕事の面で様々な支援などに取り組んではいますが、木材の情勢が変わってきているので、その辺が進まないことが問題です。山や木材の必要性は述べますが、潤いがすぐに還元出来ないことが、今の状態ではないかと思っています。

林業はそういう雇用や働き場としても少ないので、海岸の方々は農業をしながら漁業もするという事で、私の所は農業をしながら山をみるという、農業と山が一体となって地域を守り動かしてきました。今では農業は農業、林業は林業、漁業は漁業というように、一体感がなかなか持てない情勢もありますので、皆さんからも林業の持ち方ということで、山は必要ですが、それではどのように活用したり、憩いの場を求めるかということは考えていきたいと思っています。

○ **早坂剛会長** 皆さんからもっとご意見をお聞きしたかったのですが、時間になりましたので終了します。事務局での取りまとめよろしくお願ひいたします。

5 その他 なし

6 閉会 (午後4時25分) (阿部真一地域振興課長)